

## 26. ダイビングに関係した2症例報告

杉山弘行\*<sup>1)</sup> 三須泰典\*<sup>1)</sup> 永山健太郎\*<sup>2)</sup>

松下賢一\*<sup>2)</sup> 池田知純\*<sup>3)</sup>

〔\*<sup>1)</sup>都立荏原病院脳神経外科  
\*<sup>2)</sup> 同 高気圧酸素治療室  
\*<sup>3)</sup>防衛医科大学校防衛医学研究センター〕

**【症例1】** ダイビング後一側の顔面側頭部皮下気腫を来した例

**【経過】** 29才, 男性, 職業ダイバー, 小笠原で水深28mから浮上後右耳痛みあり, その後右顔面側頭部腫張, 診療所で減圧症を疑われ, 発症後2日目に飛行機にて来院。来院時神経学的異常なし, 胸部レントゲン, CT スキャン正常, 聴力正常, 耳鼻科的には正常。右耳後上部皮下に握雪感を伴う皮下気腫あり, 入院後皮下気腫は減少傾向。顔面部CT スキャンにて右上顎洞から耳管にかけて, 気腫あり。高度の副鼻腔炎あり。保存的治療にて, 軽快, 退院す。

**【診断とその根拠】** 顔面・側頭部に限局して認められた皮下気腫の原因として圧外傷が考えられたが, 圧外傷部位の同定が出来なかった。

**【例報2】** ダイビング後呼吸困難にて独歩来院した例

**【経過】** 39才, 男性, 職業ダイバー, 水深10mで作業中, レギュレーター故障で空気供給が不良, 仲間の空気により浮上する。軽度の胸部違和感があったが, その日再潜水を行う。2日後13mで作業を開始し, 再び空気供給が不良, 息苦しくなりながら浮上する。浮上後1時間ぐらい吐き気, 胸苦しさが続く。その日の夕食時吐き気, 両手, 胸部のしびれ, 胸苦しさが起こる。その後, 生活は普通に続けたが, 食事などの最中, 苦しくなり, 一息では食べられない状況が続く。4日後に来院。神経学的検査正常, 外来での血液ガス検査では $PO_2$ 81.3,  $PCO_2$ 43.1で, 胸部レントゲン正常。入院後, 胸部CT スキャン, 胸部MRI, 肺換気スキャン, 肺血流スキャン等施行するも特に異常なし。減圧障害の疑いにて, 翌日と翌々日, HBO(T-6)施行する。入院後3日目には $PO_2$ 103,  $PCO_2$ 39.2

となり, 患者は胸部不快感特に夜間の訴えがなくなった。

**【診断とその根拠】** 呼吸困難の原因の一つとして, 2回の急浮上による何らかの肺の軽症圧外傷が考えられた。